

成果概要:

TICAD 9 ユース・イニシアティブ

TICAD 9 ユース・イニシアティブは、アフリカと日本の若者によって、主にAfrica Asia Youth Nest(AAYN)とAfrica Diaspora Network Japan(ADNJ)が主導し、若者に焦点を当てたネットワークであり、2024年1月に発足しました。本イニシアティブは、UNDP、UNV、JICA、その他の若者主導の組織と連携しながら、TICADの枠組みに若者を制度的に組み込むことを目的としています。

私たちは、アフリカと日本の若者の動員、そして世界銀行、アフリカ連合、日本政府などの主要パートナーとの対話を含む1年半にわたる取り組みに基づき、若者からの提言書「Youth Agenda 2055：私たちが望む未来」を策定しました。この提言は、若者の視点から見たアフリカと日本の豊かな未来に向けた共通ビジョンと行動を示しており、政府、国際機関、民間、そして市民社会セクターを対象としています。

Youth Agenda 2055を実行段階に移し、「私たちが望む未来」を実現するためには、TICAD 9 ユース・イニシアティブが公式に認識され、TICAD 9 の成果文書に反映されることが不可欠です。

以下は、TICAD9の公式成果文書への盛り込みを提案する文言です。共催者の皆様におかれましては、TICAD9ユース・イニシアティブの目標が反映されるよう、各種発信・発言内容の中に本声明の内容をご考慮いただけますと幸いです。

1. 私たちは、アフリカと日本の若者による共創的な変革ソリューションを推進する
TICAD 9ユース・イニシアティブが若者主導であることを認識する。若者によるTICADへの制度的な関与を強化するための「TICADユース諮問委員会」「ユース財団」「ユース・ドライブ／会議」の設立に向けた取り組みを全面的に支持する。これらのプラットフォームは、アフリカと日本の若者による長期的な共創を促進するものである。
2. 提案されている「TICAD 9ユース財団」の構想は、若者が主体となって学び合い、力を伸ばすための専用のオンラインプラットフォームを備えている。このプラットフォームには、信頼できる若者主導のプロジェクトを紹介するページがあり、それらの取り組みを支援したい世界中の投資家や企業をマッチングさせ、若者が資金調達を可能とする仕組みが設けられる。また、奨学金や起業家の交流、インターンなどを通じた学びの機会に関する情報も提供され、それらはオンラインと対面の両方で実施される。加えて、若者の挑戦や文化を紹介するメディア発信も行い、共感とつながりを広げていくものである。
3. 私たちは、若者主導かつ若者に焦点を当てた持続可能な社会経済変革の推進が重要であることを再確認し、アフリカと日本の若者のための革新と持続可能な成長の触媒となることを約束する。また、若者中心の活動を導くための政策枠組みの必要性を認識する。

以下は、「Youth Agenda 2055：私たちが望む未来」に基づく、TICAD 9本会合に向けた若者からの主要メッセージです。アフリカと日本の若者が共有する優先課題を示すものであり、TICAD 9の成果文書に若者主導の視点や、持続可能で包摂的な開発へのコミットメントを反映させるためには、アフリカと日本の若者代表が本会合に出席すること、あるいは以下の提言内容を議論に反映させることを強く求めます。

柱1: 社会

日本とアフリカの若者は、特に教育と健康の分野で大きな格差に直面し続けています。日本とアフリカの若者は、アフリカでの識字率や卒業率の低さ、また日本とアフリカで共通して、性と生殖に関する健康（SRH）やメンタルヘルス支援の不足が継続的な課題であると高い関心を抱いています。また、アフリカでは「頭脳流出」の問題が地域の発展を阻害しており、日ア間の共創と知識の交換を促進する仕組みが求められています。これらの課題に対応するために、TICADはユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）と質の高い教育を推進すると同時に、関連する政策とプログラムの立案、実施、モニタリングにおける若者の積極的参加を制度化する必要があります。

柱2: 経済

若者による起業と、アフリカ・日本間の共創は、両地域にとってイノベーションを生み出し、持続可能な経済成長を促進する大きな原動力となります。これは、相互に利益をもたらす未来を築くうえでの鍵です。しかし、日本の若者は賃金の伸び悩みや急速な高齢化に伴う社会保障負担の増加といった課題に直面しており、アフリカの若者は高い失業率や不安定な雇用環境に悩まされています。起業への関心は両地域で高まっているものの、資金調達の困難さや規制の複雑さなど、多くの障壁が存在しています。こうした共通の課題を乗り越え、若者主導の社会変革を実現するためには、産業開発の促進、社会的保護制度の強化、そして若者の起業を支える包括的な支援が不可欠です。さらに、共創と革新を支えるためには、若者が自由にアイデアを発信し、協働できる、包摂的な社会文化とプラットフォームの整備が必要です。これにより、両地域の共通の繁栄と、社会のレジリエンスの向上に貢献することが期待されます。

柱3: 平和とガバナンス:

アフリカでは、紛争や気候変動による災害が原因で国内避難民が増加しており、これが地域の安定に深刻な影響を及ぼしています。これに対し、日本は核兵器による被爆国として、世界平和の推進において独自の道義的・歴史的責任を担っています。持続可能な平和を実現するためには、外交努力に加え、軍縮、包摂的対話、そして若者の実質的な参加が欠かせません。しかしながら、アフリカと日本を含む両地域の若者たちは、政策決定プロセスから排除されており、特にTICADにおいても正式な参加の場が与えられていません。この観点から、若者・平和・安全保障（YPS）アジェンダの推進と、平和構築やガバナンスの枠組みにおける若者の制度的参画が強く求められています。

Enabler1: 人と人とのつながり:

日本とアフリカの間には、若者の交流や学び合い、共通課題に対する共創を通じて、相互発展の可能性が広がっています。この可能性を最大限に活かすためには、両地域の人々の真のつながりを強化することが不可欠です。まず、若者の移動と交流を促進するためには、既存の留学制度の拡充・柔軟化（例：高校／高専／専門学校／起業家向けプログラムを新設する

等）、日本語およびアフリカ諸言語教師の育成、そしてワーキングホリデー制度などの柔軟なビザ制度の導入、文化面（アート、音楽、文学等）を通じた交流の促進が求められます。次に、ディアスポラが日本・アフリカ社会で活躍し、貢献できる仕組み（例：外国人向け生活支援の拡充、政治的意見表明の適切なメカニズムの構築等）を整備し、社会的結束と多文化共生を促進することが重要です。さらに、日本・アフリカ協力枠組みを強化するためには、民間セクターの積極的な関与と、TICAD構造を「共創型」モデルへと転換し、共通の所有感を重視する必要があります。またその過程において、アフリカ諸国がリーダーシップを十分に発揮することが重要です。

Enabler 2: 持続可能性:

アフリカと日本は、気候変動の緩和と適応の両面で協力を深め、気候正義を推進する必要があります。自然災害対策や再生可能エネルギーの導入に向けた資金動員、若者主導のクリーン技術革新を支援することが極めて重要です。特に長年の工業国である日本は、その歴史的責任を認識し、アフリカの低炭素社会への移行を支援するために、資金提供および技術支援のリーダーシップを発揮すべきです。さらに、TICADは、気候変動による移住者の増加という新たな課題に対処するため、ホストコミュニティでの統合支援の仕組みを確立する必要があります。

「Youth Agenda 2055：私たちが望む未来」の実現に向けて、TICADユース・イニシアティブは、TICAD 9後に以下の3つの制度的枠組みの設立を目指します。

1. TICADユース財団(Youth Foundation):

若者主導の開発、革新、起業を支援する専用機関として機能し、資金提供、能力強化、可視化により、若者が「最初の一步」を踏み出すことを支援します。アフリカと日本の若者がつながり、協働し、メンター制度に参加できるよう、スキル共有と学びを促進するデジタルプラットフォームを設置します。信頼された若者プロジェクトの紹介セクションや、民間・公共・市民社会セクターから資金を集めるグローバルファンドレイジング部門も含まれます。

2. TICADユース諮問委員会(Youth Advisory Board):

選出された若者リーダーによって構成される代表機関で、TICADプロセス内の政策やプログラムに若者の視点を提供します。若者の優先課題に助言を行い、特に周縁化されたグループの包摂的 대표を確保します。また、政策提言の審査や共催者との連携、TICAD関連プロセス全体における若者参加のモニタリングを行います。

※これはTICAD 9 ユースイニシアティブの活動を引き継ぐものです。

3. Youth Drive(ユース・ドライブ):

TICADユース諮問委員会が主催し、TICADの主要プロセスの一環として、毎年開催されます。多様な若者グループが対話、アドボカシー、ネットワーキング、能力強化に参加する場を提供するとともに、Youth Agenda 2055および関連する若者主導イニシアティブの進捗を追跡します。